

平成30年度 第1回大和市文化創造拠点等運営審議会 会議要旨

1. 日 時 平成30年8月9日（木） 午前10時～午後12時
2. 場 所 文化創造拠点シリウス1階 ギャラリー
3. 出席状況 委 員 6名
事 務 局 4名（図書・学び交流課長ほか3名）
指定管理者6名（やまとみらい統括責任者、やまと芸術文化ホール館長、市立図書館長、生涯学習センター館長、屋内こども広場館長、防災センター所長）
4. 傍 聴 人 なし
5. 次 第
 - 1 開会
 - 2 議題
 - （1）指定管理者の評価について
 - 3 その他
 - 4 閉会
6. 会議資料
 - 平成29年度大和市文化創造拠点評価書（指定管理者：1次評価、市：2次評価案）
 - 平成29年度大和市文化創造拠点評価書記入要領
7. 公開・非公開の状況
■公開 □非公開 □一部非公開

<会議要旨>

- 1 開会
事務局より委員の出席状況と会議の成立について報告を行った。
- 2 議題
 - （1）指定管理者の評価について
事務局より評価要領を説明した後、平成29年度分の1次評価結果及び2次評価案について説明を行った。

【質疑応答】

- 委 員 : 2次評価案については、審議会の意見も集約したうえで最終的な評価としていく。シリウスを良くしていくための意見をお願いしたい。評価項目がいくつかあるが、まずは身近なところで「2 利用者サービスについて」から聞いていきたい。初めに（1）やまと芸術文化ホールについて。
- 委 員 : 近隣にホールが多い。他のホール公演の広報を目にする機会も多いが、地域で過当競争になっているということはないか。

- 指定管理者 : 県内にホールは多いが、専門的な分野に特化したホールもあれば、当ホールのように市民やプロが出演する多様なジャンルを行うホールもある。大和市のホールとして、どのように市民特性を捉え特徴を持たせるのか考え続けながら、演目を選定していきたい。
- 委 員 : 当ホールの公演は、偏りが無く、世代も幅広く対象としているところがよい。
- 委 員 : 質問には、広報については、対外的にはホールが核で、地元密着は各施設といったグラデーションが意識されているか、また、一方で市民と共同した公演がホールでも行われていくようにとの思いも含まれていたと思う。ほかにはいかがか。
- 委 員 : 2年目なのに良くやってくれている。今後Sが増えてくることが期待できる。
- 委 員 : 昨年B評価であった項目「サービス提供の取組」が、今回はA評価となっているが、いかがか。
- (一同) : 異議なし。
- 委 員 : 託児付きの公演はどれくらい行われているのか。
- 指定管理者 : 屋内こども広場で運営している保育室を各自利用いただいているが、保育室の営業時間外(夜)の公演については、託児付きとしている。昨年は、3公演が該当。
- 委 員 : 託児付き公演をさらに増やす予定はあるか。
- 指定管理者 : 夜の公演が増えれば託児付きの公演も増えるが、日中開催への観客ニーズの方が高いので、公演の開催時間によって託児付きとしていく。
- 委 員 : 実績について、観客数にばらつきがあることについてはどう捉えているのか。
- 指定管理者 : 公演内容、開催日時、価格等は、観客動員数を想定した上で企画しているが、それらの条件が合わず、想定に達しないことがある。経験を積み重ね、利用者ニーズを把握しながらミスマッチを無くしていきたい。
- メインホールの特徴である音の響きを体感してもらうために、クラシック音楽の公演には力を入れているが集客に苦勞しているのは事実である。しっかりしたアーティストを迎えながら、周知などに努力し満席を目指していく。
- 委 員 : 先日、やまと芸術文化ホールが主催した市民劇を鑑賞した。舞台に立つことで自分の才能に気づいたり、客席も満席になって舞台(演劇など)への思いがあることがわかり、とても良い公演だった。著名人の公演だけでなく、市民目線の活動ニーズも把握して公演に反映していただくことに期待したい。
- 委 員 : 評価書や事業報告書だけでは、周辺地域からのシリウスへの期待の高まりを計ることは難しい。
- また、ホール公演の後図書館や生涯学習センターなどへ流れていく回遊的な行動を誘発するシーンとしてのシリウスをどのように評価に取り込んでいくのかも難しい。
- 委 員 : 地域の若い芸術家を育成するなどの新たなコンテンツの創出は行うのか。
- 指定管理者 : アウトリーチ活動や館内でのワークショップなどを実施している。既存のネットワークやホール事業で培った地域との関係性を生かして今後も継続していきたい。
- 事 務 局 : 現在、指定管理業務においては若手アーティストの育成プログラム実施などは求めている。まずは、市民の方への文化芸術の振興をお願いしている。
- 委 員 : 続いて、(2)図書館について意見を求める。

- 委員 : 3点聞きたい。1点目は、郷土資料の受入が進まない理由は、指定管理者故に市や市内の郷土史家との結びつきが無いということか。2点目は、障がい者サービスのボランティア育成は行わないのか。3点目は、パスファインダーを作成してレファレンスへ結び付けるような宣伝活動の考えを伺いたい。
- 指定管理者 : 1点目の郷土資料の収集については、書誌作成に時間がかかったこと、行政資料については待ちの姿勢となってしまうことなどが理由としてあげられる。また、郷土史家に関する情報収集の手段を増やしていきたいと考えている。郷土資料に関する新たな取組としては、自分史の寄贈を呼びかけており、配架もしているのでは是非見て欲しい。2点目の障がい者ボランティアの育成だが、現在行っていない。対面朗読室は、朗読者をご自身で連れてきて利用いただいている。今後、社会福祉協議会等との連携を検討したい。3点目のレファレンスについて、言葉自体馴染みがないかもしれない。レファレンスサービスの利用を通じて、ご自身で調べる力をつけていただくことが目標である。レファレンス機能のPRを考えたい。
- 委員 : 障がい者サービスの担当スタッフがいないということか。
- 指定管理者 : 専任では無いが、窓口サービスのスタッフが担当している。
- 委員 : マルチメディアデイジーの提供も行っているのか。
- 指定管理者 : 障がい者サービスの利用登録をしていただいたかたに、デイジーを始めとした録音資料や点字資料などの貸出サービスや、必要があれば宅配サービスなどを提供している。
- 委員 : ボランティアを育成しなくてもスタッフでまかなえるという考えか。
- 指定管理者 : 対面朗読にはノウハウが必要と考えているが、それ以外の障がい者サービスは現スタッフで対応が可能である。
- 委員 : 郷土資料の扱いは図書館業界において問題になることでもあるのでとても大事にしないといけない。郷土資料とは何かの再定義が必要。待ちの姿勢では集まらないものだし、最近では印刷媒体だけではない時代である。地域の方が撮影した画像も郷土資料となる可能性もある。それらをどのようにアーカイブ化するのも課題である。郷土資料の収集を軽視する例もあるのでその点はしっかりとお願いしたい。
- 委員 : サービス提供に関する取り組みの、様々な利用者にとって利用しやすい環境を提供する、という点においては、年間300万人、累計500万人の来館者数という実績は、とても大きなポイントだと思っている。図書館スタッフのフロアワークが非常に良かった経験をしたこともある。もっと高評価でも良いと思う。席数が多い、居心地が良いということもあるが、スタッフに声を掛けやすいということも良いサービスではないかと思う。S評価にしてはどうかと思う。
- 指定管理者 : 利用者の登録や資料の貸出につなげることは、フロアワークにおいて最も重視している。また、書架が階層を跨いでいることで、資料を探しにくい部分もあるかもしれないが、その点をフロアワークで解消したいと思っている。
- 委員 : 続いて、(3)生涯学習センターについて。人員体制に関する評価がB評価になっていることについて意見等はあるか。

- 委 員 : 以前の学習センターより、今の方がスタッフの気持ちが前に出ていて親切さを感じる。そういった相談のしやすさとか、全体の雰囲気も良いということも大切なことなので、評価はBでなくてもよいのではないかな。
- 指定管理者 : そのような意見をいただけるのはありがたい。ただ、スタッフの入替もあり、対応が後手になってしまった部分もあったことからB評価にした。今後も利用者に寄り添った対応を心掛けたい。
- 委 員 : 生涯学習センターが自主事業でやっている事業は、もっと広報をしたほうがよいと感じる。
- 指定管理者 : 自主事業のほとんどが定員を超える申込があるが、広報は以前からの媒体を踏襲しているだけなので、定員に達しているとはいえ事業についての情報を得ることができていない人もいる可能性があることを念頭に、広報媒体を増やし、広く周知を図りたい。
- 委 員 : 6階のぷらっと大和は、夕方になると中高生の話し声が大きい。注意喚起の張り紙はあるが、あまり効果が無い。こういった子ども達を静かにさせるだけではなく、将来に希望を持ってもらえるような事業などのPRを各テーブルに設置できないかと思う。
- 委 員 : 利用ルールが無いと無秩序になってしまう。
- 委 員 : 生涯学習センターという施設だからこそ、子ども達を育てるということも考えて欲しい。ぷらっと大和は多くの中高生が集まる貴重な居場所である。
- 指定管理者 : プらっと大和では、他の利用者の迷惑になる行為については声かけを行うが、マナーを学ぶ場でもあると考えているので細かいルールは決めていない。騒ぐ子ども達を退場させるのではなく、こちらから積極的に声を掛けて関係を築くことで、スタッフの話に耳を傾けてくれるようになり、マナーの向上につながると考えている。
- 委 員 : 子どもの育成の観点からは、やはり夢を持ってもらえるようなイベントの紹介を是非、お願いしたい。
- 指定管理者 : ホール事業にはなるが、来年度、ダンサーを講師に呼んで、中高生自らが創作活動を行う事業を予定している。シリウスには多くの中高生が来てくれているが、まだそれぞれの学校の枠を出ていないと感じている。学校の枠を越えて芸術作品を作る事業を施設全体で進めていきたい。
- 委 員 : 続いて、(4) 屋内こども広場について意見を伺う。
- 委 員 : 3階のマルチスペースがフロアの奥にあることで、集客がしづらい。マルチスペースでは児童館の作品展等、良い展示を行っている。3階のげんきっこ広場でも連携して誘導するなど、一体感をもって取り組んでもらいたい。
- 指定管理者 : その点については工夫したい。
- 委 員 : げんきっこ広場の利用者数が目標に届かなかったとあるが、屋内こども広場ではいいイベントを実施しているので、地域の児童館とのタイアップや、広報の協力など、周知を強化すれば、げんきっこ広場の利用者数も増えると思う。
- 委 員 : 続いて、(5) 共通事項について何か意見はあるか。
- 委 員 : 指定管理者が実施している連携事業はうまくいっていると思うが、生涯学習セン

ターまつりの際、サブホールとギャラリーと6階で会場を分けたことで、フロア間の動線が途切れてしまうことがあったので、自主事業以外でも施設間の連携のフォローをお願いしたい。

委 員 : 芸術文化ホールと生涯学習センターとの融合などはここにしかないものなので、大切に進めていただきたい。

委 員 : 融合、連携は開設当初からのテーマである。イベント毎のタイアップは進んでいるが、何の達成をもって成果とするのか考えておく必要がある。芸術文化ホールでイベントを実施したら、その足で図書館で調べものをする人や、生涯学習センターで学ぶ人がいるといった自己啓発サイクルを生むことを想定したプログラムが理想だ。

指定管理者 : 平成29年度にサブホールで落語の公演をやったが、連携して図書館では落語に関する本の展示、生涯学習センターでは寄せ字講座、屋内こども広場で子ども落語を実施した。連携のケースとして紹介したい。

指定管理者 : 事業企画検討委員会において、ホールでの事業だけでなく図書館や生涯学習センターへ、どう繋げて融合、連携を図るかを議論している。

委 員 : ②情報発信について意見等はあるか。

委 員 : 来館者アンケートの実施について、多岐にわたるアンケートではなく、小さな意見を吸い上げるようなことをやって欲しい。意見の投書箱も設置するといいいのではないか。

指定管理者 : ご意見箱を1階に設置している。開館以来、400件を超す意見をいただいております、検討した結果をホームページで公開している。アンケートは接遇に関することに集中しているので、細かい意見をひろいあげる仕組みを考えていきたい。

委 員 : 来館者アンケートは来た人に紙を配る方式なのか。

指定管理者 : 前回と同様、紙を配る方法で実施する。

委 員 : 前回と違うアンケート方式を取り入れることはしないのか。

指定管理者 : 来館者用アンケートなので、その場で書いてもらうには限界があるため、現状では簡潔な内容かつ接遇に関するものが中心となっているが、細かいことを聞くとすると実施手法は検討しなくてはならない。今後の課題としたい。

事 務 局 : 非来館者アンケートは、行政の所管と捉えている。市民意識調査の中に盛り込む等の対応が考えられるが、市としても課題として認識しておく。

委 員 : 3. 施設維持管理については全てA評価ということで問題ないと考えられる。最初の1. 運営組織に関することと、最後の総合評価の文言についてはいかがか。

委 員 : この文言を見ると、ソフト面の満足度はすでに高いという印象を受ける。図書館に関しては、資料の収集や利用促進が大切だと思う。現時点では、シリウスの座席利用が評価されているのであり、ハード面の評価は良いが、ソフト面はこれからだと思う。

事 務 局 : シリウスは居場所であるというコンセプトを市が打ち出しており、それに合わせる形で図書館のルールを緩やかにしている。今までの図書館とは違う図書館であると捉えている。来館者に図書館資料の活用を促すというのは課題ではあるが、健康テラスにおける事業の充実等と合わせ、全体的に判断し、この総合評価の文

面とさせていただいた。

委員：閲覧席と自習席を分けている図書館もある。シリウスは、それを分けない図書館であるということだと思う。自習席の利用者もいずれは図書館の資料を利用する方向へ誘導することも考えなくてはならないが、いずれにしてもシリウスは地域の公共図書館としては実験的なものであると思う。

委員：今、大和市立図書館の影響力は非常に大きい。近隣から見るとうらやましくもあるが、脅威でもある。シリウスは、生涯学習の場としての側面があるので、座席利用が評価されていることにも理解はできるが、図書館としての本質的な部分は大切にしたい。

委員：シリウスの基本的な考え方として、まちづくりの拠点であることも総合評価の文言に含めておくとよい。

委員：総合評価の文言にはシリウスへの評価であると同時に、健康都市やまを推進するための施設でもあるということが入っていると良いということだと思う。

委員：中央林間図書館や新学習センターのポラリスをはじめ、各地区の学習センターの動向も含めてもらえるといいと思う。

事務局：中央林間図書館もポラリスも平成30年度に開館した施設になるので、来年の評価の時にはそのことも含めて検討したい。

委員：総合評価には融合、連携を図って総合力を発揮するという文言を入れて欲しい。

委員：委員の意見は、評価結果の再検討を含め、事務局で集約をお願いします。

事務局：議事録の確認と合わせ、修正後の評価についても委員の皆さんにフィードバックさせていただく。その後、会長と文言の細部を調整したうえで、最終評価として公表したい。

委員：それでは評価の再検討を事務局をお願いします。

3 その他

事務局より、第2期終了についてお礼。

意見等は特になし。

4 閉会

以上